

都市再生整備計画 事後評価シート  
緑の里・保内地区

平成28年6月

新潟県三条市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県		市町村名	三条市		地区名	緑の里・保内地区		面積	451ha
交付期間	平成22年度～平成26年度		事後評価実施時期	平成28年度		交付対象事業費	1,439	国費率	0.352	
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 地域生活基盤施設(排水再利用施設上保内内排水路改良、下保内内排水ポンプ設置)、高次都市施設(観光交流センター)							
		提案事業								
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
			【地域創造支援事業】保内公園整備事業		事業を見直した結果、本計画で実施しないこととしたため、計画から削除するもの		影響なし			
			【地域創造支援事業】オープンガーデン巡り事業		事業を見直した結果、本計画で実施しないこととしたため、計画から削除するもの		影響なし			
		【地域創造支援事業】里山遊歩道整備事業		事業を見直した結果、本計画で実施しないこととしたため、計画から削除するもの		影響なし				
		【事業活用調査】事後評価モニタリング等調査委託事業		委託ではなく直営で実施するため、計画から削除するもの		影響なし				
	新たに追加した事業	基幹事業	【道路】交流拠点施設交差点進入路工事		高次都市施設、地域創造支援事業から道路事業に一部を変更するため、計画に追加するもの		影響なし			
			【地域生活基盤施設】防災カメラの設置(布施谷川)		地区住民・観光客の安全安心を確保するため、計画に追加するもの		影響なし			
			【地域生活基盤施設】防災カメラの設置(吉津川)		地区住民・観光客の安全安心を確保するため、計画に追加するもの		影響なし			
		提案事業	【地域創造支援事業】交流拠点施設整備事業		高次都市施設から地域創造支援事業に一部を変更するため、計画に追加するもの		影響なし			
交付期間の変更	当初	平成22年度～平成26年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-				
	変更	-								

	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度		目標年度		モニタリング	評価値				
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標1	植木産業の売上額	万円/年	3,925	H21	4,320	H26		3,121	×	あり ● なし	保内地区の主要産業である植木産業の振興を目的に拠点となるべく保内地区交流拠点施設の整備が計画より遅れたことで、植木や庭木のPR及び展示販売ができなかったことから、各事業効果が薄れ、売上額の増加につながらなかった。	H29.3
	指標2	保内公園利用者数	人/年	71,110	H20	74,700	H26		66,086	△	あり ● なし	保内公園の利用者数は、毎年実施している保内公園まつりや保内トレッキング、里山散策等により、年々増加傾向で計画期間の平均利用者数は80,000人を超えており、本計画の整備事業により、更なる利便性が図られたことからもある程度の効果があった。	H29.3
	指標3	オープンガーデン巡り参加者数	人/年	162	H21	200	H26		175	△	あり ● なし	本指標は保内公園まつり等のイベント参加者数を想定して設定していた。しかしながら、本来のオープンガーデン参加者は年々増加傾向にあり、おもてなし体制の充実や個人として庭を開放していただけのケースもあり、拡大傾向となっていることからもある程度の効果があったと考えられる。	H29.3
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
	その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>保内交流拠点施設が整備されたことにより、保内地区の主要産業である植木産業の振興促進及び緑あふれる自然環境を活かした観光・交流の振興が図られた。</li> <li>上保内地区排水路改良事業、下保内地区排水ポンプ設置事業により降雨時の溢水を防止するとともに、円滑な排水が図られ、浸水被害の発生を抑制することができた。</li> </ul>												
5)実施過程の評価	モニタリング		実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
							都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
			・緑の里 保内オープンガーデンの推進 オープンガーデンプロジェクトを発足し、パンフレットの作成及び案内看板等の設置を行い、利用者の拡大を図る。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 緑の里 保内オープンガーデンの拡大及び推進を継続する。		
			・トレッキング、里山散策の推進 保内地区の緑あふれる自然環境を活かしたトレッキングや里山散策を新たな観光資源として位置付け、交流人口の拡大を図る。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 既存のトレッキング事業だけでなく、様々な事業やイベント連携して取り組むことで、新たな来訪者を獲得し、交流人口の拡大を図る。		
		・保内緑の里管理組合 保内地区交流拠点施設の指定管理者として既存の組織を拡充し、各班・部会等を立ち上げ、保内地区の活性化に向けた取組の検討及び活動を行った。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 保内地区交流拠点施設を拠点として、周辺の施設及び関係団体と連携して、保内地区の活性化に向けた様々な取組を継続していく。			

## 様式2-2 地区の概要

### 緑の里・保内地区(新潟県三条市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標:「地域特性を活かした市民・観光客の交流拠点の創造」 目標1:地域産業の振興促進を図る。 目標2:新たなニーズに対応した観光メニューの充実を図る。	植木産業の売上額	万円/年	3,925	H21	4,320	H26	3,121	H26
	保内公園利用者数	人/年	71,110	H20	74,700	H26	66,086	H26
	オープンガーデン巡り参加者数	人/年	162	H21	200	H26	175	H26

**まちの課題の変化**

課題1 地域産業が衰退してきている中で、保内地区の主要産業である植木産業の振興が必要となっている。⇒保内地区の主要産業である植木産業の振興を目的に拠点となるべく保内地区交流拠点施設が整備され、植木や庭木のPR及び展示販売の場ができたことにより、今後は植木産業の活性化が見込まれる。

課題2 保内地区の緑あふれる自然環境を活かした観光・交流のより一層の振興が求められている。⇒保内地区交流拠点施設を拠点とした、緑あふれる自然環境を活かしたトレッキングや里山散策等の様々な取組を行うことで交流人口の拡大が見込まれ、保内地区の観光振興につながった。

課題3 オープンガーデンの利活用や里山散策などの新たなニーズへの対応が求められている。⇒保内地区交流拠点施設が中心となり、保内公園やオープンガーデンと合わせ周遊することで、様々な緑花木を楽しめる環境が整い、植木や庭木に直接触れ、見ることができる観光スポットが加わった。

課題4 保内地区へアクセスする上で重要なJR保内駅前及び国道403号の降雨時の浸水対策が必要となっている。⇒上保内地区排水路改良事業、下保内地区排水ポンプ設置事業により降雨時の溢水を防止するとともに、円滑な排水が図られ、浸水被害の発生を抑制することができた。

**今後のまちづくりの方策(改善策を含む)**

- ・保内地区交流拠点施設及び保内公園、オープンガーデン等周辺施設との連携強化⇒保内地区交流拠点施設を拠点として周辺施設との連携を強化し、保内地区全体を植木や庭木の一大庭園として産地ならではの魅力を最大限活かしたイベントや取組を効果的かつ戦略的に計画し、実施していく。
- ・保内緑の里管理組合及び各種関係団体との連携強化⇒保内園芸組合及びにいがた南蒲農協等との連携を強化し、保内地区における植木産業の促進だけでなく、地域経済活性化に向けた取組を効果的かつ戦略的に計画し、実施していく。
- ・保内地区交流拠点施設としての魅力を高めるため様々な取組を計画し、効果的に実施する。⇒利用者が飽きることなく何度も来場してもらうために、植木の産地でしか見られない珍しい樹木、名木等を展示するほか、幅広い年齢層も楽しめるイベント等を定期的に行っていく。

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他( )		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	交流拠点施設交差点進入路工事	-なし		103.6	L=150m	平成25年度第3回計画変更で追加高次都市施設、地域創造支援事業から道路事業に一部を変更するため、計画に追加	影響なし	●	-
地域生活基盤施設	上保内地下排水路改良	5.0	L=50m W=1m	20.6	L=60m W=1.4m	実施設計に伴い事業費を変更	影響なし	●	-
	下保内地下排水ポンプ設置	25.0	1基	61.9	1基 盛土	実施設計に伴い事業費を変更	影響なし	●	-
	防災カメラの設置(布施谷川)	-なし		0.8	1基	平成25年度第3回計画変更で追加布施谷川の河川状況を把握し、地域資源の保全及び観光客の安全安心を確保するため、計画に追加	影響なし	●	-
	防災カメラの設置(吉津川)	-なし		0.9	1基	平成26年度第4回計画変更で追加吉津川の河川状況を把握し、地域資源の保全及び観光客の安全安心を確保するため、計画に追加	影響なし	●	-
高次都市施設	観光交流センター	856.0	建設費・造成費・設計費 管理棟 温室ハウス 駐車場 多目的広場	694.6	建設費・造成費・設計費 庭園生活館(管理棟) 庭園体験館 駐車場 交流広場	地域の各関係団体等との調整の結果、建物・造成工事等の計画に変更があったため、事業費を変更	影響なし	●	-

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと





添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)	従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2	1年以内の達成見込みの有無			
				基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	事後評価	事後評価		あり	なし		
指標1	植木産業の売上額	万円/年	植木まつりにおける売上額	-	-	3,925	H21	4,320	H26	モニタリング	—	—	モニタリング	●	
										事後評価	確定見込み	●	3,121		
指標2	保内公園利用者数	人/年	保内公園利用者数	-	-	71,110	H20	74,700	H26	モニタリング	—	—	モニタリング	●	
										事後評価	確定見込み	●	66,086		
指標3	オープンガーデン巡り参加者数	人/年	オープンガーデンめぐり参加者数	-	-	162	H21	200	H26	モニタリング	—	—	モニタリング	●	
										事後評価	確定見込み	●	175		
指標4										モニタリング			モニタリング		
										事後評価	確定見込み				
指標5										モニタリング			モニタリング		
										事後評価	確定見込み				

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	年々売上高が減少してきている状況の中、植木産業における振興の拠点となるべく保内地区交流拠点施設の整備が遅れ、H27年度末となったことで、各事業の効果が薄れたことにより、目標の達成ができなかった。	
指標2	目標を達成した年もあったが、植木産業における振興の拠点となるべく保内地区交流拠点施設の整備が遅れ、H27年度末となったことで、各事業の効果が薄れたことにより、目標の達成ができなかった。	
指標3	目標を達成した年もあったが、植木産業における振興の拠点となるべく保内地区交流拠点施設の整備が遅れ、H27年度末となったことで、各事業の効果が薄れたことにより、目標の達成ができなかった。	
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合



添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度		基準 年度				
その他の 数値指標1							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標2							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標3							モニタリング		
							事後評価		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・保内交流拠点施設が整備されたことにより、保内地区の主要産業である植木産業の振興促進及び緑あふれる自然環境を活かした観光・交流の振興が図られた。
- ・上保内地下排水路改良事業、下保内地下排水ポンプ設置事業により降雨時の溢水を防止するとともに、円滑な排水が図られ、浸水被害の発生を抑制することができた。

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	-	-

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
・緑の里保内オープンガーデンの推進 オープンガーデンプロジェクトを発足し、パンフレットの作成及び案内看板等の設置を行い、利用者の拡大を図る。	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	【実施時期】 平成22年度～平成26年度 【実施効果】 保内地区が一大庭園の風情となっていることをPRしたことにより、地区全体の活性化及び植木産業への波及効果につながった。また、おもてなし体制の充実や個人として庭を開放していただけるケースもあり、拡大傾向となっている。	緑の里 保内オープンガーデンの拡大及び推進を継続する。
・トレッキング、里山散策の推進 保内地区の緑あふれる自然環境を活かしたトレッキングや里山散策を新たな観光資源として位置付け、交流人口の拡大を図る。	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	【実施時期】 平成22年度～平成26年度 【実施効果】 毎年300人を超える参加者が集うイベントとなっている「NST三条・保内健康トレッキング」を実施することで、保内公園周辺がトレッキングコースとしても認知され、イベント以外の時期も数多くの方々が来訪している。	既存のトレッキング事業だけでなく、様々な事業やイベント連携して取り組むことで、新たな来訪者を獲得し、交流人口の拡大を図る。
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
・保内緑の里管理組合 保内地区交流拠点施設の指定管理者として既存の組織を拡充し、各班・部会等を立ち上げ、保内地区の活性化に向けた取組の検討及び活動を行った。	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	各班・部会やオープンガーデンプロジェクトを中心に各事業の検討を行い、保内公園等で様々なイベントや取組を実施した。	保内緑の里管理組合 組合員:36名	保内地区交流拠点施設を拠点として、周辺の施設及び関係団体と連携して、保内地区の活性化に向けた様々な取組を継続していく。

### (3) 効果発現要因の整理

#### 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的組織	総務部 行政課 経済部 営業戦略室 建設部 建設課	平成28年2月～3月	営業戦略室

#### 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1	指標2	指標3			
指標名		植木産業の売上額	保内公園利用者数	オープンガーデン巡り参加者数			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業							
提案事業							
関連事業							

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- －：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用			
-------	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3		
指標名		植木産業の売上額			保内公園利用者数			オープンガーデン巡り参加者数		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	【道路】交流拠点施設交差点進入路工事	×	保内地区の主要産業である植木産業の振興を目的に拠点となるべく保内地区交流拠点施設の整備が計画より遅れたことで、植木や庭木のPR及び展示販売ができなかったことから、各事業効果が薄れ、売上額の増加につながらなかった。	I	×	保内公園の利用者数は、毎年実施している保内公園まつりや保内トレッキング、里山散策等により、年々増加傾向で計画期間の平均利用者数は80,000人を超えており、本計画の整備事業により、更なる利便性が図られたことからもある程度の効果があった。	I	×	本指標は保内公園まつり等のイベント参加者数を想定して設定していた。しかしながら、本来のオープンガーデン参加者は年々増加傾向にあり、おもてなし体制の充実や個人として庭を開放していただけるケースもあり、拡大傾向となっていることからもある程度の効果があったと考えられる。	I
	【地域生活基盤施設】上保内地区排水路改良	△			△					
	【地域生活基盤施設】下保内地区排水ポンプ設置	△			△					
	【地域生活基盤施設】防災カメラの設置(布施谷川)	-			-					
	【地域生活基盤施設】防災カメラの設置(吉津川)	-			-					
	【高次都市施設】観光拠点施設整備事業	××			×					
提案事業	【地域生活支援事業】交流拠点施設整備事業	××			×			×		
関連事業										

※目標未達成への影響度

- ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

<p>改善の方針 (記入は必須)</p>	<p>今後は保内地区交流拠点施設を植木産業における振興の拠点とし、保内地区全体を植木や庭木の一大庭園として、産地ならではのイベントや取組を効果的かつ戦略的に計画した中で、市民だけでなく、市内外の方々へ緑や花のある暮らしを提案していく。 また、保内公園やオープンガーデン、各関係団体と連携しながら地域経済の活性化を図り、保内地区の主要産業である植木産業の売上増加を目指す。</p>	<p>保内公園まつりや保内トレッキング、里山散策等のイベントや取組を継続することで、保内地区の観光資源としての確立を目指す。 また、保内地区交流拠点施設と連携しながら、緑あふれる自然環境を活かした様々な取組を行うことで、交流人口の拡大を図り、保内公園の利用者数増加を図る。</p>	<p>長年の伝統に培われた匠の技や産地でしか見られない珍しい樹木、名木といった植木産地のならではの特徴を最大限に活かしながら、オープンガーデンの拡充及び質の向上を図る。 また、保内地区交流拠点施設や保内公園と連携し周遊できる仕組みを構築し、オープンガーデンの利用者増加を図る。</p>
--------------------------	---	--	--

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的組織	総務部 行政課 経済部 営業戦略室 建設部 建設課	平成28年2月～3月	営業戦略室

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
地域産業が衰退してきている中で、保内地区の主要産業である植木産業の振興が必要となっている。	保内地区の主要産業である植木産業の振興を目的に拠点となるべく保内地区交流拠点施設が整備され、植木や庭木のPR及び展示販売の場ができたことにより、今後は植木産業の活性化が見込まれる。	植木産業の振興促進 (植木産業の売上向上)	
保内地区の緑あふれる自然環境を活かした観光・交流のより一層の振興が求められている。	保内地区交流拠点施設を拠点とした、緑あふれる自然環境を活かしたトレッキングや里山散策等の様々な取組を行うことで交流人口の拡大が見込まれ、保内地区の観光振興につながった。		
オープンガーデンの利活用や里山散策などの新たなニーズへの対応が求められている。	保内地区交流拠点施設が中心となり、保内公園やオープンガーデンと合わせ周遊することで、様々な緑花木を楽しめる環境が整い、植木や庭園に直接触れ、見ることができる観光スポットが加わった。		
保内地区へアクセスする上で重要なJR保内駅前及び国道403号の降雨時の浸水対策が必要となっている。	上保内地区内排水路改良事業、下保内地区内排水ポンプ設置事業により降雨時の溢水を防止するとともに、円滑な排水が図られ、浸水被害の発生を抑制することができた。	普通河川吉津川の中流部における慢性的な流下能力不足	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	保内地区交流拠点施設及び保内公園、オープンガーデン等周辺施設との連携強化	保内地区交流拠点施設を拠点として周辺施設との連携を強化し、保内地区全体を植木や庭木の一大庭園として産地ならではの特徴を最大限活かしたイベントや取組を効果的かつ戦略的に計画し、実施していく。	・保内公園まつり連携イベント ・体感型プログラムの開発・実施 ・効果的な情報発信
	保内緑の里管理組合及び各種関係団体との連携強化	保内園芸組合及びいいがた南蒲農協等との連携を強化し、保内地区における植木産業の促進だけでなく、地域経済活性化に向けた取組を効果的かつ戦略的に計画し、実施していく。	・定期的な情報交換及び情報連絡会議の実施
	保内地区交流拠点施設としての魅力を高めるため様々な取組を計画し、効果的に実施する。	利用者が飽きることなく何度も来場してもらうために、植木の産地でしか見られない珍しい樹木、名木等を展示するほか、幅広い年齢層も楽しめるイベント等を定期的に行っていく。	・植木まつり連携イベント ・体感型プログラムの開発・実施 ・効果的な情報発信

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策  ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	植木産業の振興促進	保内地区交流拠点施設を植木産業における振興の拠点として、施設内での植木や庭木のPR及び展示販売等を行いながら、保内地区全体を植木産地としての認知度向上及び植木産業の売上増加を図る。	・保内地区交流拠点施設を拠点とした各種イベント及び取組 ・効果的な情報発信
	普通河川吉津川の中流部における慢性的な流下能力不足	中流部においては、農業用排水路との位置づけもあることから土地改良区と連携を密にし、抜本的な改善計画を視野に入れ、関係する全ての機関が協働し、協議・検討を行っていく。	・関係者間による連絡調整会議の継続

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見



添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。  
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	植木産業の売上額	万円/年	3,925	H21	4,320	H26	確定 ●	3,121	×	あり ●		H29.3	植木まつり、交流拠点施設における植木の売上	
							見込み			なし				
指標2	保内公園利用者数	人/年	71,110	H20	74,700	H26	確定 ●	66,086	△	あり ●		H29.3	保内公園利用者数	
							見込み			なし				
指標3	オープンガーデン巡り参加者数	人/年	162	H21	200	H26	確定 ●	175	△	あり ●		H29.3	オープンガーデン巡り参加者数	
							見込み			なし				
指標4							確定			あり				
							見込み			なし				
指標5							確定			あり				
							見込み			なし				
その他の数値指標1				H			確定							
							見込み							
その他の数値指標2				H			確定							
							見込み							
その他の数値指標3				H			確定							
							見込み							

**添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方**

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		関係団体との調整及び工事の進捗管理を徹底し、効果が計画年度内に発現できるようにする。
	うまくいかなかった点	保内地区交流拠点施設の完成がH27年度末になってしまったため、目標年度に効果が発現して目標を達成することが出来なかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		計画における目標と事業を精査し、次のステップへつながる数値目標を選定し、確実に数値を計れるものを設定する。
	うまくいかなかった点	数値目標を設定するにあたり、確実に数値として計れるものを選定するべきであり、事業との関係性を鑑みて設定できていなかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

**添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)**

・今後の都市再生整備計画事業の活用予定  
三条市中心市街地地区、須頃地区、大崎地区

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット				担当課へ郵送、FAX、Eメール、持参	営業戦略室
広報掲載・回覧・個別配布	三条、栄、下田庁舎及び各地区公民館に印刷物を置き、意見聴取を行う。	平成28年4月16日発行 広報さんじょう4月16日号	平成28年4月16日～5月6日		
説明会・ワークショップ					
その他					
住民の意見	特になし				

## (6) 評価委員会の審議

### 添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	近藤 雄介 (三条商工会議所 都市開発委員長)	平成28年6月15日(水)	営業戦略室	三条市都市再生整備計画に係る実施事業事後評価等委員会要領	独自に設置
その他の委員	三条市自治会長協議会 役員 桑原 喜平太 三条観光協会 会長 杉野 真司 三条地域振興局 計画調整課長 安井 和也				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	—
	成果の評価	・指標が分かりにくい。実績値なのであれば、そのように記載すべきという意見があった。 ・指標3のオープンガーデン巡り参加者数の目標値はそんなに高い数値ではないので、もう少し努力してもらいたいという意見があった。
	実施過程の評価	・オープンガーデンは近年安定した集客はあるが、内容の変化が乏しい状態が続いており、新たな取組やガイドの発掘など、取組次第ではまだまだ可能性を秘めている事業なので、色々提案していきたいという意見があった。
	効果発現要因の整理	・効果発現要因の整理について、適正であることが確認された。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案の公表の妥当性について、適正であることが確認された。
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きについて、妥当であると確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・施設内の庭園は、和風が中心となっており、若い世代の方々は洋風を好む傾向があるので、老若男女を問わず上手くマッチングできような工夫をしてほしいという意見があった。 ・植木は年中売れるものではない。季節に応じた四季折々のイベントを実施して、来場者を確保する必要があるという意見があった。 ・保内地区は昔から書画・骨董・掛け軸を好む人が多い。美術品の展示は難しいかもしれないが、集客のためには目玉になるようなものが必要であるという意見があった。 ・単に植木を展示するのではなく、植木についての説明表示などを設置して、また次に来てみたくなる工夫が必要であるという意見があった。 ・パンフレットについて、保内交流拠点施設だけが掲載してあるものではなく、保内公園やオープンガーデンが一体的に掲載してあるパンフレットにするべきであるという意見があった。
	フォローアップ	・特になし
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策について、妥当であると確認された。
その他	・特になし	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。